

## 有害化学物質の管理

### PRTR( Pollutant Release and Transfer Register: 環境汚染物質排出移動登録)法への対応

PRTR制度とは「化学物質の環境への排出量と廃棄物に含まれた形で移動する化学物質の量を登録して公表する仕組み」のことで1999年に法制度化され、2001年度から対象化学物質の把握が開始されました。

当社は火力発電所の給水処理などに化学物質を使用していますが、従来から購入量・使用量などを把握・記録するなど適正な管理を行ってきました。

2001年度の実績は以下の通りです。

排出量・移動量の集計結果(2001年度)

物質名	用途	取扱量	環境への排出量	廃棄物としての移動量
30: ビスフェノールA型エポキシ樹脂	塗装	3.61t / y	72kg / y	-
40: エチルベンゼン	塗装	1.10t / y	1,100kg / y	-
63: キシレン	塗装	4.00t / y	4,000kg / y	-
253: ヒドラジン	給水処理用	4.41t / y	0.1kg / y	0.0kg / y
179: ダイオキシン類	廃棄物焼却炉より	-	255mg-TEQ / y	171mg-TEQ / y

・特定化学物質を年間1t以上取り扱う事業所を対象に集計しました。  
 ・ダイオキシン類は廃棄物焼却炉からの排出量を集計しました。  
 ・小型廃棄物焼却炉1基( 排出量 240mg-TEQ / y、移動量 170mg-TEQ / y )については2001年度をもって廃止しました。

### ダイオキシン類対策

当社では、流木の処理等のためにダイオキシン類対策特別措置法で規定された特定施設に該当する焼却炉を保有しています。

これらの特定施設については、燃焼管理等の適切な維持管理を行っています。また、法では排ガス中のダイオキシン濃度を年1回以上測定し、自治体に報告することになっていますが、2001年度は全ての焼却炉で、排ガス中のダイオキシン濃度は排出基準以下でした。

また、ダイオキシン類の排出を抑制するため、廃棄物の有効利用を促進し、廃棄物発生量の低減に努めています。

### PCBの管理

PCBは耐熱性、絶縁性にすぐれているため、変圧器などの電気機器に広く使用されてきましたが、有害性が問題となり、1974年に製造・輸入が禁止されるとともに、保有者は厳重に保管・管理することが義務付けられました。また、2001年7月にはPCB特別措置法が施行され、事業者にはPCB廃棄物の適正な処理が義務付けられました。当社では、PCBを含む電気機器については保管倉庫などを設置して厳重に保管・管理しています。また、PCBを確実に適正に処理するために、「環境行動推進会議」のPCB処理検討部会において、処理方針の検討を行っています。

## 自然環境の保全

### 希少動植物との共存

当社は、生物の多様性確保などの観点から、希少動植物への関心が高まっていることを踏まえて希少動植物との共生を念頭に、十分な調査とその結果に基づく事業の計画・建設・運用に取り組んでいます。

2001年度も奥只見・大鳥増設建設工事などの推進にあたって、周辺に生息する希少動植物への影響について綿密な調査を継続して実施しました。



巣立ちから158日目の幼鳥

イヌワシの営巣期( 11月～翌年6月 )には、営巣地から1.2kmの範囲内での地上部の工事を休止するなどのイヌワシ保護対策を実施しています。当社は猛禽類等に詳しい学識経験者や専門家を委員とする委員会を社内を設置し、上記の希少

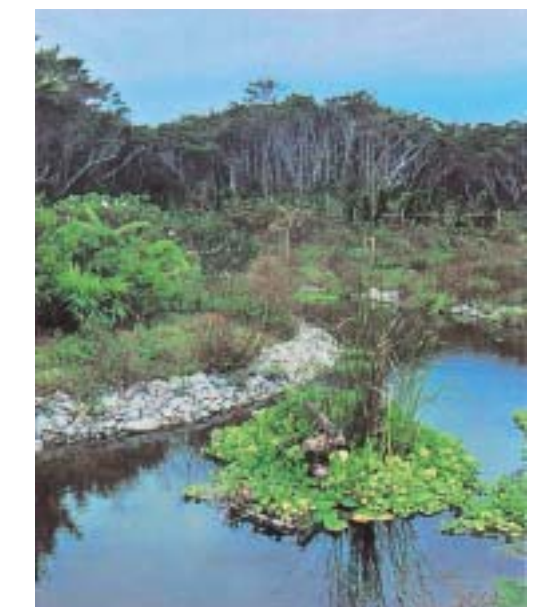
鳥類調査、イヌワシ及びクマタカの保護に関する指導・助言を得、これを踏まえて保護対策を検討し実施しています。このほか、増設工事にとれない湿地環境を復元・保全するなど、自然との共生に向けた取り組みを実施しています。

### 環境創生地

沖縄県国頭村で実施している海水揚水発電実証試験( 経済産業省より受託 )は、世界初となる海水を使った揚水発電です。試験設備には周辺地盤への海水の漏水防止等の環境対策を行っており、実証試験では、これらの環境対策技術の信頼性を実証することが目的のひとつになっています。1999年より試験運転を開始し、2001年度も試験運転を継続して実施しました。

また、サイト周辺には沖縄県特有の希少動植物が生息しているため、実証試験プラント建設にあたっては、工事関係者を含め関係者全員が環境保全に積極的に取り組むとともに、土捨場に周辺植生と同様な自然環境を再生し、「環境創生地」として原状復旧を図るなど、周辺の自然環境と調和した発電所をめざしました。「環境創生地」をはじめとする発電所周辺では、実証試験の一環として上池に揚げた海水が上池周辺に及ぼす影響を確認するとともに「環境創生地」における植物の生育状況などを確認するため、継続してモニタリ

ングを実施しており、今後の環境保全対策に資する貴重なデータが得られています。



「環境創生地」

### 河川環境との調和

水力発電所では、自然と調和した発電所づくりを進めるとともに、河川環境との調和に努めています。

水力発電所のダム下流においては、ダムから発電所放水口の区間の河川流量が減少するため、国土交通省など関係機関と協議のうえ、その影響を緩和するため河川維持流量の放流を実施しています。このような取り組みは2002年3月末までに29発電所、区間延長524kmで実施しています。

また、奥只見発電所の増設工事( 2003年運転開始予定 )では、新たに河川維持流量を放流し、河川環境との調和を図るとともに、維持流量の放流設備に発電機を設置し、水資源の有効利用を図る計画です。



奥只見ダム